

# ほたる草

大阪市天王寺区東高津町12-10  
 大阪市ボランティア情報センター内  
**福祉と住環境を考える会「ふくてっく」**  
 発行責任者 代表：杉浦史郎  
 TEL 06-6765-4041  
 高齢者や障害者の住環境  
 改善を目指すボランティア  
 グループです  
 ホームページ <http://www.osakacity-vnet.or.jp/link/hukuteku/>



中北と佐藤園長から、計画のコンセプト、所建物の説明の後、施設内を自由に検分。ほがらか苑に比して、一段と見栄えもよくなったミルクペイントの出来映えや木質内装の暖かみ、ディルムその他分散配置された居住空間、プレグロブホームの画期的な試み、屋上展望浴室などの遊び心、そして市民参加の象徴

その後3月23日、竣工式が開かれました。市内の多くの福祉法人関係者や地元諸団体代表も臨席されましたが、思いの外、評判は上々でした。なにより、着工前の地元説明会で、なんに恐い顔をしていた方々



**3月定例会**  
 平成12年3月4日(土)  
 今林の里見学会  
 \* \* \*  
 今林の里は、昨年3月に起工式をしました。実質的には4月に入ってから着工。予定り、本年2月末に引き渡すことができました。2月は、行政その他の検査で終了しましたから実質的には5ヶ月の工期でした。

## 他に類を見ない施設 今林の里 見学会

た。振り返れば、相当な突貫工事だったわけですが、ふくてっくの例会は、3月4日、まだ十分に備品もそろわ、出来立てほやほやの状況で行われました。当日はふくてっくメンバー以外にも、樹望塾関係や奈良育成会の方々、その他にも大勢の参加がありました。



陶板レリーフ

この種の施設は、運営の大変さを思えばきりがなく、多くの問題を抱えています。ハードのあるべき姿については、まだまだ考え足りない要素を膨大に残しているかも知れません。しかし、ともあれ他に

が、人が変わったくらいにニコニコされていたのが嬉しい事でした。  
 陶板の製作に尽力いただいた舞洲陶芸館の吉田館長も、レリーフの出来映えは絶賛され、是非次の機会にも、頑張りますよと大いに盛り上ったものです。  
 4月以降、施設は活動を始めています。この施設は、社会に開かれた施設である事が最も重要なコンセプト

の1つでした。言い換えれば、市民が支え、活動に参画して行かねばならないのです。建物が完成したらそれで私たちの仕事が終わるわけではありません。これから本番なのです。いろいろな問題を含みますが、壁を乗り越えて、すばらしい施設に育てて行くにはありませんか。しなやかに、したたかに、そしてたおやかに。  
 (記 中北 清)



### ボランティアと私

畑 俊治

「畑さんは何故ボランティアをしているの？」といふ人から質問を受けることがあります。たいがいの場合「一緒に仲間やその他の団体にきれいな女性が多いから」と答えます。以前はボランティアなんか全く興味がなく、むしろ批判的でした。ボランティア活動をしている人に対して「お前ら、自分の仕事に生きがいを持っていないか?」「会社ではたぶん窓際族でろくな仕事もさせてもらえてないやろ」「恵まれない人達を助ける?そんなもん行政の仕事やないか!」なんてそんな行政がやるべき仕事をタダでせないかのや!」「我々こそ正義の味方!」みたいな顔しやがって、ボランティアに参加しない者を人間のクズ扱いにするな!」

「お前ら、KOOJIKI(差用語ですみません)か?恵まれない人を助けたいなら、他人のお金を当てるにすぎないで、自分で働いて稼げ!」カンプパないで、り過ぎる人たちを、悪人をにらみつけるように見やがって」とまあ、こんな偏見をいだいていました。今でも街頭カンパに対しては少し抵抗がありますが、ボランティアに関しては、ぼくがボランティア活動をやり始めてから、考え方は百八十度変わりました。どこが変わったかと申しますと、ボランティアも社会には必要で、それなりの意義も十分あるということが自分なりに理解できたということだと思います。

今の社会は自由競争主義です。学力・知力・体力・容姿に恵まれ、努力を重ね、競争に勝つ者が皆から認められる社会の強者になり得るのです。強者になれば金力、権力もつかめる。またぼくたちは「競争は正しい」と教えこまれてきました。しかし、強者にとっては競争は正義であり得ますが、何らかのハンディを持った弱者は強者を勝たせるための存在にすぎません。機

会の平等は全ての人が生まれながらにして持っているはずで、ボランティア王国イギリスである人に言われました。「ボランティアとは我々健全者が弱者を助けることでもなく、弱者が助けられることでもない。機会の平等を分かち合う、ただそれだけのこと。」世の中にはお金に結びつくことしかない、お金にならないことには一切興味がない人がいます。なんとなく寂しい気がします。マズローの「人間の5段階欲求説」というのがあります。①生理的な欲求 ②安全の欲求 ③愛と所属の欲求 ④承認の欲求 ⑤自己実現の欲求。①から⑤に進むほどより人間的だと言っています。自己中心の世界から抜け出して何かのために、誰かのために何らかの役に立てると感じられる喜び、それが自己実現だと思えます。ボランティアとはそういう行為ではないかという気がしません。

ぼくのボランティア経験で何よりもすばらしいと思うのは、全く利害関係を伴わない仲間との交流です。普、社会においてはほとんどの人たちの間で利害が発生します。会社においては仕事の能力と給料、外では協力会社、得意先、ほとんどお金が絡みます。しかしボランティア団体にはそれがありません。また上下関係もなく、誰に命令されるわけでもなく、拒否することも自由です。この社会、生きる手段として金に確かに必要ですが、カネカネカネの社会です。から一歩抜け出して行動することも『魂』の洗浄になると思います。

ほとんどの人が何らかの被害を受けて大変な時に、ぼくの行為に心から感謝の言葉を寄せられました。今までこんな人から喜んでもらったことはない、自分の技術や知識がこんなに人のために役立つのかと初めて実感しました。  
 寒い朝、早く起きて高槻からJR、梅田から阪神電車まで青木、それから徒歩でまわり、帰るのは夜遅く、疲れてしまっていた頃、ある女性から電話がありました。その人はあるボランティア団体の代表代理をされており、毎日被災地に行つて炊き出し等の活動をしているとの事でした。ぼくなんかよりずっと頑張っている人がもつと沢山いるのを知り、翌朝も出かけることができましたことを思い出します。

### ホームページ開設のお知らせ



ふくてっくのホームページが出来ました。「大阪市ボランティア情報センター」のページに入ります。どうぞご覧になってください。  
<http://www.osakacity-vnet.or.jp/link/hukuteku/>

※投稿をお願いします。紙に余裕のある時に掲載させていただきます。

# 障害者の代弁者として ディスクジョッキーに



## 4月定例学習会

平成12年4月1日(土)  
福祉放送ディスクジョッキー

重光 萬石 氏

日本福祉放送の看板パーソナリティー『ラジオ天国・重光萬石!』のディスクジョッキー重光萬石氏は、岸和田市にある重光鍼灸・整骨院の院長でもあります。朝7時半から10時まで診療にあたり、昼から『ラジオ天国・重光萬石!』でしゃべるとい生活だそうで、その爽やかな語り口に魅了され、会員一同、最後まで熱心に聞き入っていました。お話を内容を次に要約しました。

ると、障害をもった人たちの出会いも多く、その人たちが、軽いコミュニケーションさえうまく出来ないし、とても下手なのを見て、機会があれば代弁したいと考えていました。

もともと、しゃべるのが好きですから、ディスクジョッキーになりたいの思いもあり、6歳でタレントの養成学校に入りました。在学中に、四国高松のFM放送で4時間半の深夜放送を担当、今こそNHKでも深夜便がありますが、当時は少なく人気がありました。

その後、キダタロー、浜村淳所属のプロダクションに入り、ポツポツ世間に認知させたいと思っています。現在の福祉放送も、はじめはボランティアでした。『お帰りなさい・重光萬石!』を243回、3時から4時に移り『ラジオ天国・重光萬石!』が248回続いています。

3月16日には、滋賀県のリスナーからの呼びかけで、大分県耶馬溪で開催さ

れたタンDEM自転車全国サイクリング大会に参加しました。全国から視覚障害者130人、前乗りボランティアなどを含めて500人が集まり、小雨の中スタートしました。青の洞門までのキロを約30分で走りま

タンDEM自転車は、今は一歩道の走行を禁止されていますが、生活の道具になつてくれるかと思っています。買い物に行く時や病院に行く時、ボランティアと一緒に乗って行けると楽しいですね。走りやすい道路の整備も必要ですが、参加したのは弱視か中途失明の人が殆どで、全盲で一度も自転車を見たことがない人にはバリアが大きくむづかしいそうです。

このように視覚障害者といつてもさまざまです。ところが、私たちは、障害者によつて違うのを忘れて、マニュアルどりに対応しているように思います。パラリンピックで、『まず握手してください』という話、いやな人もあるのにまるで特に取り扱い説明書があるみたいですね。障害者にもいろんな人がいて一人一人違う。それは健常者でも同じこと。高齢者や障害者のた

めにとつていかなことか、特に仕立てられた物やサービスは当事者にとつていかなことか。お互いに見つけたノウハウを共有することでユニバーサルな物やサービスを創つていきたいです。

## 介護保険における 福祉用具購入費・ 住宅改修費について

- 給付の対象
  - \* 65歳以上で要支援、要介護の人
  - \* 40歳~64歳で特定の病気で要支援、要介護の人
  - 福祉用具購入費
    - \* 支払限度基準額 10万円 (年度ごとの設定・同一種類の購入は不可)
    - \* 介助、介護の支給額とは関係しない。
    - \* 同一種類でも用途及び機能が異なる場合・破損した場合・介護の程度が著しく高くなった場合は再度購入できる。
  - \* 種類 (特定福祉用具)
    - 腰掛便座・特殊尿器・入浴介助器

障害者もいますが、これも特視してきた結だそうです。タンDEM自転車のようにな、いつでも誰でも、気軽に使えて楽しい「もの」や「こと」を創っていく、即ちユニバーサルデザインに期待すると結ばれました。

浴補助用具・簡易浴槽・移動用リフトの吊り具の部分  
住宅改修費  
\* 支払限度基準額 20万円 (生涯1回・超過する金額は被保険者の自己負担)

消費税込込み・1割(2万円)自己負担・金額内でなら分割して工事する事ができる。但し転居したら新しく可・介護度が3以上高くなつたら可。

## 定例会のお知らせ

6月	日時 6月3日(土) 午後1時30分~4時	場所 大阪市社会福祉センター 1階研修室	内容 「違つことこええ(つちや)」	講師 障害者文化情報研究所 所長 牧口 一二氏
7月	日時 7月1日(土) 午後1時30分~4時	場所 大阪市社会福祉センター 3階会議室 (予定)	内容 「弱視の兄ちゃんが歩んできた道」	講師 サロン鶴見 曾根 利弘氏



西区 Tさんの10歳 女性  
A 現在木造住宅の2階で生活されている。1階は以前飲食店をしていたが、昨年の3月にご主人が亡くなつてから、店はそのまま使っていない。水廻りが全て1階なので、1階で生活できるようにしてほしい。  
B 長男と同居(の代失業中、知的障害の傾向が見られる)。毎日長女が日常の世話をしに来る。2年前に骨折してから病院と自宅で療養するが、その中で痴呆の傾向が見られ、ご主人が亡くなつてから幻覚や妄想障害が多く見られるようになる。ベッドや畳の上でも横になつていことが多く。1階に行くまでに失禁が多くなり、夜中外へ徘徊するようになる。  
C ①1階の什器を撤去し、居室になるように床・壁・天井・建具を設ける。②便器は様式に交換し、洗

浄用のリモコンを設置する。  
③浴室の湯沸し器は追焚専用で店舗内に設置され、シャワー・カランからは水しか出ないので、屋外型の給湯器・カラン類も取り替える。④厨房部の改修。⑤必要な場所に手すりを取り付ける。⑥洗コナーを設ける。  
住宅改造助成金・日常生活用具給付金で約70万円の補助が受けられた。(記 清水 麗子)

D ①店舗(寿司屋)部分を居間に改修。元々天井高が低く(高さ2350mmほど)今回は床上げをする為、現在の天井が多少でも上がるか心配したが、一応2200mm確保出来る。床フローリング貼り、壁プリント合板、天井エンボスボード貼り仕上げ。  
②元々800mm×840mmと狭いトイレを袖壁、ドアを取り外し、1800mm×840mmの広さにする。  
③浴室の給湯器を取り替え、シャワーを新設。なお、



3月は、例会で今林の里を検分後、部会報告などをこなしたものの、夕刻になつて追い出されるように退出。懇談会ではできなかった。それでも、居酒屋会議はしたたかに開催されたが、かねてより抜本的な見直しを必要とされる住環境改善活動システムについて、3月28日特懇談会が開かれ議論された。

課題は、①ニードへの迅速な対応 ②適切な診断と活動の遂行 ③ボランティア精神による適正価格 ④会員の活動機会の平準化 ⑤独善に陥らない相互チェック機能 ⑥技術資料の蓄積 ⑦社会への発信、である。初期診断部会からは、会員の活動時間の制約もあつ

て、どうしても迅速な対応が難しく、しかも負担が偏り勝ちである現状が報告された。  
また、業者委託部会からは、せつかくの独立部会間の情報交換が不十分で、部会の設立趣旨が機能していない事が指摘された。製作部会も同様に、一部会員に活動機会(負担)が集中している事、特に資材や道具の保管・搬送が一局に集中せざるを得ない現状が説明された。  
費用の見積もりも、未だ明確な根拠だてが完成したとは言い難い。  
以上のような議論の中から、部会の統廃合を含めた抜本的なシステム変更が避けられないとの判断にたつて、次年度からのスタートを目指して、4月中旬に草案づくりを急ぐ事になった。

4月1日、定例懇談会では、上記の提議が再確認され、この件は関連部会リーダーによる特委員会によつて審議する事とした。(4月17・21日) そのほか、当日は4・5月の木工教室予定についての件、4月28日のボランティア活動研究会の件、および5月の総会にむけての諸準備の件が議論された。  
4月17日、前述の特委員会がもたれ、議論は紛糾したが、その中から新しくコーディネーターという役割を創設して、大幅な自由裁権を認めて対応して行くという案が浮上した。会の組織も再構築する必要を生じ、住宅改造等の活動は、今後当会の「基本事業」と呼び、従来の初期診断・製作・業者委託・事後検証の各部を統合して基本事業部にまとめる事とする。  
引き続き2日にその細部が検討され、会則・細則の変更案および議案書原案が吟味された。  
いずれも、議案書として5月の総会において、会員の審議に賦される運びとなった。(記 中北 清)

# 事例報告

A ニード  
B 日常生活と家庭状況  
C 解決方法  
D 改善後の状況と考察

平野区 ほのぼの  
知的障害で高齢者の  
福祉作業センター



改造前

ふくてつく会員でもある佐藤園長(大和川園)の依頼で3月14日に初期診断に赴きました。

### 施設概要

- ①同施設周辺の知的障害者(30~55歳)5名のデイサービスセンター的施設(大邸宅の一部を間借り)
- ②利用時間は10時から15時30分
- ③送迎及びケアはボランティアと職員1名で対応

### 依頼内容

- ①借家である1階の施設(約13帖)とその奥の6帖の台所及び和室4



改造後 玄関の置を変更しスロープに



帖半をワンルームにする。②玄関より車イス対応(段差解消)にする。③トイレに手スリを取り付ける。その他。  
「工事は4月5日までに完了してほしいんですが・・・」(佐藤氏)と大変きびしい条件でした。佐藤氏の依頼なら仕方ない。本業をしばらく横において、大急ぎで図をかき、ふくてつく登録業者に超突貫工事を依頼したところ、2社から断られ、3社目のD建設に無理をお願いしました。  
毎日夜遅くまで、また土曜、日曜も返上して仕事をし、頂いたD建設の社長と大工さん(Yさん、Iさん)に心より感謝いたします。

スタッフのIさん、夜遅くまでおつきあい頂き、ご苦労さまでした。I氏の明るく人柄と福祉の仕事に対する情熱には大変好感を抱きました。

間仕切壁撤去や段差解消のため、玄関の置まで変更という大掛りな改造に対し、大家さんもよくご理解されたと思います。福祉に対する深いご理解にも頭が下がります。  
今回も大変でしたけれど、よい体験をさせて頂きました。尚、2年後は2階の部屋も間借りして、本格的なグループホームにしたいとの事でした。(記 畑 俊治)

### 寝屋川市 Kさん 8歳 男性

A 知的障害(自閉症)を持つ子のご両親より、本人の状態が悪い時に行動を制限するための仕掛けを建具や家具に設けたい。

B 両親と本人の3人暮らし。地元の小学校の養護学級に所属しているが殆どついていない。母親と離れることが出来ず、始終付いて回り悪戯をしたり、物を散乱させたりするため、特に母親に非常な負担となっている。打合せ時は必ず父親が

仕事を休まれて、両親のどちらかがご本人の相手をしていなければならない状況であった。

C ニードをそのまま実行しても、問題の根本原因を解決することにならないばかりか、かえって本人の精神状態に悪い影響を及ぼす可能性が懸念されたため、昨年末の合宿会議の場を借りて検討した。その結、ニードに対する対応と並行して、専門家によるカウンセリングと専門機関の紹介が必要との意見を得た。

後日、大和川園の藤原氏に同行いただき、その点についての認識を確認したところ、日々の生活を構造化する(TEACHプログラム)という観点からも効が期待できるとの結論に達し、そこから新たなステップに親子で取り組んでいきたいとのことから、当初のニードに沿った計画を進めることとなった。

また様々な取り組みをされた中で本人の状況に適した施設がなく、地元の養護学級に対する抵抗が比較的小さいことから、新たな紹介は行われなかった。

定なものではかえって危険が生ずるとの判断から2枚引戸を設けた。(業者委託 福伸)



①建具の新設

②引戸ストラップ 完全に閉ざす錠前ではなく、10cm程度の隙間を残して緩やかに(サインのに)用いるため、布製のベルトを使用。(ふくてつく直営 能勢会)



②引戸ストラップ

③家具の改造 食器戸棚と居間のクロゼットを、必要に応じて錠錠が行えるような引戸式のものに作り替えた。本人がアレルギーをお持ちで化学物質に敏感なため、素材・塗装には、安全なものを使用した。(業者委託 藤本木工 所)

D 業者委託工事に先行して直営工事を行い状況確認したところ、いざという時のための安心感が生まれ、



③家具の改造 クロゼット



③家具の改造 食器戸棚

実際にはあまり使用していないとのこと。使用されないことがかえって好ましいという特殊な改造となった。  
委託工事は、母子に実家へ避難していただき1日で完了する必要があった。朝9時過ぎから取り掛かり、完了したのは夜10時前。福伸・藤本の合わせて6人の職人さんが入り乱れての工事となるなど、施工上大変ご無理をお願いした。  
出来栄は見事で大変満足して頂いたことに加え、心に余裕が出来たとのことであった。ご本人は、年度末より学校にも再び始めたそう、今後とも良い方向に進んでくれることを願っている。  
(記 伊藤 嘉英)

## なにわ区 子どもカーニバル

3月5日(日) 浪速区民センターで浪速区コミュニティ協会主催のイベントがあり、木工教室が開催されました。このイベントは、区内の子どもたちに、人と人のふれあいの大切さを認識できる場を提供し、健全な遊びを心身共健やかな育成を図ることを目的としています。

ふくてつくのメンバーは開催1時間前からスタンバイ完了。子どもたちの入場を待っていました。

用意しておいたサンプルを見るなり、材料を探しピックアップし抱きかかえる。「ノコギリかしてください」、「トンカチかして」、「クギヌキ有りますか」と子どもたちの歓声が上がり、ふくてつくは対応に大忙し、開始後1時間で、道具が足りなくなり、多めに用意しておいた材料の一部(丸型材料)が品切れ状態となりました。

中には、初めて会った子ども同士、工具の借りあいっこをし、協力しながら仲良く製作に励んでいる光景がありました。両親と一緒に



3月22日(日) 今川学園ネットワーク施設運営委員会主催のおおこえカーニバルが開催され、子ども木工教室を行いました。前日は雨が激しく、当日どうに

## 木工教室・大工教室

### おおこえ カーニバル

来た子どものなかには、いつの間にかお父さんが中心となつて製作をしている光景も見られました。大きなケガもなく、アツといゆう間に時間が経ち、後片付けをみんなで行い、今回のイベントの目的を十分たしたと言う満足と、あの

子どもたちの熱心な姿、協力し合う姿などのすばらしい光景など拝見でき、楽しい時間を過ごさせてもらいました。外の寒さも和らぎ、身も心もほんのり桜色かな・・・?  
(記 高木 敏裕)



### OYAKO フェスティバル

3月25日(土) 住吉区社会福祉協議会の主催でOYAKOフェスティバルが開催され、手作りコーナーにふくてつくのメンバー5名が参加しました。

当日はおだやかな天気でも会場もホテルと併用、なかなか立派な建物で、その豪華な事にはびっくりしました。大きな部屋を各催し毎に仕切つて、木工教室・ミニ講演・幼児の遊び場・曲芸。それぞれ特徴のある催しがあり、参加者は楽しく過ごしていました。

木工教室は若いお母さんと子どもが中心で、なれなれい手つきでノコギリ、金ヅチを使つておられました。

### 女性のためのDIY講座

3月5・12日と大阪市立勤労婦人センター主催で日曜木工教室が行われました。基本的な大工道具の使い方と、プランター作りです。

杉浦代表の挨拶、スタッフの紹介のあと、後藤さんの大工道具の使い方の講習がありました。

その後、平松さんがプランター作りを説明。受講生は話を聞きながら大工道具の点検に余念がない。スタッフは色々とお話をしながら、受講生に喜んでもらえるよう心を配りまし



た。一人一人顔が違うように、プランターひとつ作るにも、その人の性格が出ていて、興味深いものでした。2日目となると、昼休み中も夢中になつている人もいる程。受講生は充実した2日間に、非常に喜んでいました。

(記 光川 聿子)